

1 週 序論

質問 1. 人の第一の目的は何ですか。

答え I 人の第一の目的は、神の栄光をたたえ、永遠に神を喜ぶことです。

質問 2. 私たちが神の栄光をたたえ、神を喜ぶために、神が私たちにくださった規準は何ですか。

答え I 旧・新約聖書に記された神の御言葉は、私たちが神の栄光をたたえ、その神を喜ぶための方法を教えてくださる唯一の規準です。

質問 3. 聖書はおもに何を教えていますか。

答え I 聖書はおもに、人は神について信じることと、神が人に要求なさる義務について教えています。

解説

人の第一の目的

人の創造において、第一の目的は、神に栄光を現すことです (I コリント 10:31)。

神は、その存在において、栄光の方であり万物の創造を通して、ご自身の栄光を現わしました（詩 19:1-4, 145:10、エペソ 3:10）。従って、すべての被造物は、神の完全さと聖さについて、当然、賛美をささげるべきです（詩 50:23）。

被造物の中で最も優れた者として造られた人が、神をあがめるのは当然の本分です（マタイ 5:48）。人が神の栄光を現すためには、先ず、神を望みとして求めることです（詩 73:25-26）。そして、神が罪人を贖うために備えられた救いの恵みを受け入れ、頼ることです（I ヨハネ 5:10）。神が指示なさった通りに礼拝すること、神を賛美すること、神が命令なさった通りに従順することが、神に栄光を現すことです（詩 96:7-9、I コリント 6:20、マタイ 5:16, 7:21）。神に感謝することも、人が造られた目的を遂行することです（箴言 16:4、詩 66:8-9、I コリント 6:19-20、詩 103:1-5）。結局、私たちのすべての行為を通して神に栄光を帰さなければならぬのです（I コリント 10:31）。

人間創造において、己と関連されるおもな目的は、神を永遠に喜ぶことです。神を喜ぶということは、神と交わりを持ち、その中で楽しむことです（詩 73:25-26）。信仰によって主をつかみ、頼ることが神を喜ぶことです。つまり、キリストにあって神がくださる有益を味わいながら喜ぶことです。そのように主を頼る中で、その靈魂は神の善なることを経験し、神の特別な愛を悟るようになります（詩 34:8）。それによって、その靈魂はさらに主を頼り、将来、永遠の全き憩いに入ることを確信するようになるのです。この喜びは、神の臨在の中で言いようもない幸せを感じさせます（詩 116:7）。

このふたつの人の目的は、とても重要なこととして、他のどの義務より先立ち、互いに連結されます。神の栄光を現そうと労苦することで、後者のものを得ることが出来ます。この地において聖さを追い求めることで、天国で幸せを得るのと同じ原理です。この地において、神の栄光を現すことを望まない者は、神を喜ぶ

ことはできません（ヘブル 12:14、マタイ 5:8）。

神の御言葉

私たちが神に栄光を現し、永遠にその方を喜ぶためには規準が必要です（エレミヤ 10:23）。従って、神が人間に規準として与えられましたが、その基準が直ちに聖書です（イザヤ 8:20）。神が預言者たちに告げられ、預言者が民に神の御言葉を教えるようにされました。そして、聖霊の靈感によって記録するようになさいました。このように記録された聖書は、人間の言葉や文字ではありません（Ⅱテモテ 3:16、Ⅱペテロ 1:21）。聖書は、神の聖なる混じりけのない言葉です（詩 12:6）。

聖書は、来たるべきメシアを証している旧約と、来られたメシアを証ししている新約とに成っています。聖書は奇跡によって、そして殉教者たちの血によって確証されています（ヘブル 2:4）。さらに聖霊が直接、証しておられます（Ⅰヨハネ 2:20）。聖書は神の靈感によって書かれたので、聖書を研究して教える時に、聖霊のみわざによって悔い改めと信仰が起こされ、心の変化が起こります（ヘブル 4:12）。それは、聖霊が神の御言葉を手段として、その霊魂の上に働かれる結果です（詩 119:18、ヨハネ 3:3、使徒 16:14、エペソ 1:17-19、Ⅰテサロニケ 1:5）。

聖書は、私たちが信じて実践すべき、すべての教理を十分に含めているので、私たちが神の栄光をたたえ、永遠にその方を喜ぶための方法を教えてくれる、唯一の規準となります（ガラテヤ 6:16、Ⅱテモテ 3:15-16）。

聖書のおもな内容

聖書が私たちに教えてくれるのは、先ず、神についてです。私たちは聖書を通して神を知る知識を得るようになりますが、それは、創造主なる神と、贖い主なるキリストを知る知識です。神を知る知識は、私たちが信仰を持つようになるのに必ず必要です。もし、聖書を通して、神を知る知識がなく、不足な状態であれ

ば正しい信仰を持つことはできません。神を知る知識が不十分であれば、それは、人間の想像力や利己的な目的によって、聖書の神ではなく、自分が造った偶像的な神に仕えることに該当されます。

聖書がまた、私たちに教えるもう一つは、神に対する義務です。聖書には、神の律法と戒めが含まれています。それを通して、私たちの義務を悟り実践することです（マタイ 7:17）。従って、聖書を読みながら、私たちの心の目が開かれ、真理を見分けるようになることを求めなければなりません（詩 119:18）。そしてより深い、霊的理解があるように求めることです（使徒 18:26）。また、神が人間に要求なさる義務をしっかりと悟って実践することです。

聖書だけが唯一の規準

聖書は、信仰と義務について唯一の規準です。この基準は、神ご自身がどのように栄光を受けられるのかについて、人間に見せてくださっています（ミカ 6:6-9、マタイ 11:25-28）。聖書は、神についての知識と、神の御心を知るのに十分なもので（ガラテヤ 1:8、ヨハネ 5:39）、完全なものです（Ⅱテモテ 3:15-17）。また聖書の内容は明快で、聖霊の悟らせる影響力のもとで悟ることができます。人間の哲学や科学を通しては、神を知る知識は得られず、ただ聖書を通してだけ得ることができます。